

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	職員一人一人が理念に従い、支援に努めています
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	状況に応じて共有できない時もある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	具体的な理念の浸透は出来ていない。御家族や地域の皆さんが気軽に立ち寄れる施設づくりに取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	○	ボランティアの呼びかけを行い、多くの方に施設に気軽に遊びに来れる様、働きかけていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も、例年通り、参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ、地域に根ざす事に力を入れているのでそこまで至っていないが災害時は、当施設を利用していただくよう連絡を入れている。	○	何らかの形で地域に役立つ施設でありたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組むように努めている。	○	記録の見直し、連絡事項(申し送り)の徹底など。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	結果を議事録によって職員間に知らせている。又、必要に応じてカンファレンスでの話し合いを持っている。	○	出来るだけ全職員で会議に関わっていけるように検討していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会は、少ない。	○	わからない事については電話で聞くなどしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば積極的に参加している。玄関に制度についてのパンフレットを置いている。	○	必要に応じて支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出張の機会があれば交替で行っている。虐待については、声掛けなど意識し、ケアを行っている。	○	日常のケアにおいて虐待行為は見られないが、声掛け(言葉)には気を付けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行っている。	○	契約後も御本人やご家族の面会時などに気付いたことや不安について尋ね、声掛けしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見、不満等を出しやすい環境づくりに努め、日常のケアに反映していきたい	○	利用者様の訴えがある時には、傾聴し、対応を行っているが、職員の自己満足で終わらないように気をつけたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調不良時、突発的なことについては、早目に御家族と連絡を取るようになっている。	○	日常の様子を写真やお手紙を添えるように心掛けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情投函箱を設置している。苦情などあった時には、カンファレンスを行う	○	苦情があれば職員間で反省等おこない、今後のケアに努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設けることは少ない	○	職員の意見をもっと取り上げていけたらよいと思う
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の要望に柔軟な対応が出来ている	○	状況に合わせ話し合い、職員の確保が出来ている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じて早目に利用者様に伝え、理解して頂いていると思う。	○	今までにも職員の移動は、あったが大きな影響は見られていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務に合った研修等に参加する機会を与えられている。	○	研修会や勉強会への取り組みに意欲的である。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への参加、他グループホームとの交流会を行うなど取り組みをしている	○	他施設との交流の機会を多く持ちたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	発散の場を設けることは難しい。職員間の話し合いによって軽減に努めている。	○	ストレス解消の場が欲しいと思っている。例えば、旅行、食事会など。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	わからないが出張(研修)は積極的に行かせてもらっている。	○	向上心を持って努めたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常のケアの中でコミュニケーション、傾聴に努めている。	○	家族の協力も求めている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その都度、状況に応じて対応していきたい。	○	地域性もあるが、面会の機会を工夫して増やし、傾聴出来る様にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞いた上で対応できるかできないか判断したい。	○	状況に応じて対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気早く慣れて頂けるように御本人の要望や御家族と相談しながら行っていきたい。	○	一度、見学に来所して頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く持ち、会話を持つことで色々な話が聞けている。	○	今後も一緒に過ごす時間を大切にしながら喜怒哀楽をともにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	努めている。帰宅願望の強い利用者様は御家族との協力を得ることで、関係を築いている。	○	面会時は、利用者様の日常を伝え、意見を聞き、共に共感できる雰囲気作りに努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	努めている。	○	遠方の御家族等、お手紙や写真を送り、普段の様子をお知らせしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて連絡や面会の機会を持ち、お連れすることもある。	○	御本人が御家族や馴染みの人と遠くならないよう、支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。他者の様子を気に掛けてくださる利用者様もおられるのでその事実を大切にしています。	○	個人の能力に応じた役割を持って頂き、他者や職員が関わっていける様に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今の所、出来ていない。	○	入院時には、お見舞いに行くなど努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ把握に努めている。	○	本人の希望や思いをくみ取り、暮らしやすい生活づくりを目指していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めているが、一度にたくさんの情報を得ることは、むずかしいこともある。	○	その方の暮らしに必要な情報を御家族や御本人より具体的に把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。有する能力に応じて、身の回りの事や役割など行ってもらっている。	○	今後も個人の現状を把握し、職員間で共有できる様、努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを実施。必要に応じてご家族に相談するなど行い努力している。	○	職員間で共有できるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今の所、現状維持の方が多く、特変なく過ごされている。大きな変更もなく継続する事もある。	○	変化があればカンファレンスにて話し合い検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りにて情報は、共有し実践や見直しに努めている。	○	業務に流され細かいプランの見直しが出来ないこともある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望が発生した時に検討し、出来るだけ支援していきたい。	○	当施設で対応できることは支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個人的には出来ていない(通常)。	○	個人の都合により、警察との連絡を取り合ったことがある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、支援していない。	○	必要があれば支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、必要とされる方がいない。	○	必要があれば支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。必要に応じて他科受診もしている。	○	必要に応じて、受診に同行。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指定医療機関との連携により、いつでも相談できる態勢にあるので安心。	○	かかりつけ医師が専門医であり協力、支援頂いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤として勤め、日常の健康管理が出来ている。	○	日常の健康管理は、職員全員が把握するよう努めている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	状態や入院期間についての連絡を取り、対応する様になっている。	○	利用者様やご家族との連絡も取り、安心して療養できるようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早目に御家族と連絡を取り、相談を行い、職員間で共有している。	○	状態の変化にあわせ話し合い、相談を行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限界の所まで取り組んでいきたい。	○	終末期に向けたケアは、地域性もあり、難しいと思うが、限界まではケアに努めたいと職員間で話し合っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いを行い、支援する様に努めている。	○	在宅に戻られることは少ないが、状況に応じて、支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	個人情報においては職場を離れて口外することはない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	御本人の思いや希望を出来る限り引き出し、納得のいく生活支援に継続して努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	マンパワー不足により、業務に流されることもある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	希望により散髪、髪染めを施設内で行うこともある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	積極的にお手伝いしてくれます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	個人でコーヒーやパンを持ってこられるなど対応に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の声掛け、誘導、見守り、各個人に合った支援を行っている。又、紙パンツ、布パンツの切り換えなど必要に応じて対応。	○	オムツの使用を減らすように努めているが緩下剤使用時には、汚染を少なめに対応してしまう。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支援している。中々、浴室へと足を運ばれない方は、排泄後タイミングを見てお連れしたり浴室で好きな歌を歌ったりしている。	○	入浴拒否される方もおられるが強要せず柔軟な対応に努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御本人のペースに合わせ居室に戻り休んで頂いている。	○	冷暖房や不眠時の対応を状況に応じて行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のケアにおいて努力しているが、一人一人の細かいケアが行き届かないときもある。	○	ご本人の希望に沿った気晴らしや楽しみごとを日々の活動の中に取り入れるよう支援しているが更に努めていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は、限られているが買い物の機会がもてるよう支援している。回数は、多くない。	○	なくなった、盗られたと訴えられることもあり施設で預かりご本人と相談しながら対応をしている方もいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望が強く、常に出口を探される方に対しては、職員が付き添い散歩やドライブに出るよう努めている。	○	日常的に屋外散歩を行うように努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と連絡、相談を行いながら希望が叶うよう支援している。	○	1～2ヶ月に一度の割合で計画をたて外出(ドライブ)を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。	○	ご本人の状況や状態、ご家族の都合により対応できない時もある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	している。	○	面会の時間設定もなくいつでも対応出来る。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	深く理解することは難しいが、身体拘束をしないケアには取り組んでいる。	○	基本的に身体拘束を行うことはない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないように取り組んでいるが現状では、むずかしいところがある。	○	利用者様の状態により、やむを得ず居室(窓)や玄関に鍵を掛けることがある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、様子を確認し安全面に配慮している。	○	夜間においても定期的に見守り、巡視を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の手の届かない場所に保管。危険を予測し職員が確認できる置き場所においている。	○	今後も危険を予測し対応を行っていききたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急法の勉強会、研修の場があれば積極的に参加している。	○	必要があればカンファレンスで話し合いをもつなど事故防止への意識を持ち今後も取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災訓練、救急法の勉強会をそれぞれ年2回行っている。	○	特に利用者の急変時の対応については、不安があり頻回な勉強会、意識した対応が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網の作成、地域の区長さんを通しての話し合いを行っている。	○	もっと地域に根ざしていくことと日ごろより避難方法をシュミレーションしていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	必要に応じてご家族との話し合いを持っていきたい。	○	抑圧感のない暮らしを大切に取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日中の様子観察、記録記入、バイタル確認、情報共有により対応に結び付けている。	○	主治医に連絡を取り指示を頂き、早めの対応、職員間の申し送りの徹底に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬の効用や変更については、職員間で把握するように努めている。	○	服薬の効用、目的や効果について注意深く意識を持って支援していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックにより一人一人の状態確認を行っている。出来るだけ散歩を行い適度な運動にも心がけている。	○	水分摂取、食事の工夫、緩下剤のコントロールなどにより排便の改善に努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人の能力に応じて口腔ケアの支援を行っている。	○	継続して支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、摂取量チェックを行っている。また、個人に合わせ食事の形態、量などの工夫を行っている。	○	他者との食事摂取状況に合わせ時間をずらして対応することもある。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成している。必要に応じて勉強会を開いている。	○	予防として発生時、感染源を広げないよう必要物品がすぐに持ち出せるように準備している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮なものを使用。食器や布巾は、毎日、日光や熱湯消毒し清潔管理につとめている。	○	冷蔵庫内の食品管理にも気をつけ定期的に片付けを行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前には、常に季節の花を飾るようにしている。	○	出来るだけ家庭的な雰囲気を出していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾りゆっくりと過ごせる空間があり、台所も続いているので食事の準備する音や香りも生活の中で楽しめていると思う。	○	時間や状況に合わせ音楽をかけてくつろいで頂ける様に心掛けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに腰掛けられる位置や場所が固定してきている。利用者様同士の会話も見られる。	○	利用者様の状態によっては他者への影響もあり工夫の必要あり。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただくようにしている。室内の片付けが出来る方にはお任せし見守るように配慮している。	○	室内で日中、過ごされることは少ない。どうすれば居心地良く過ごして頂けるか工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に合わせて窓を開け喚起に努めている。又、こまめに温度調整を行っている。	○	気になる臭いがある時は、市販の物を利用したり、日に干したり、洗浄したりと工夫をしている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。	○	お部屋の配置においても個々の能力に応じて、対応を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ポータブルトイレを設置するなど夜間での自立支援、声掛けに努めている。	○	時々、部屋を間違われる利用者様には付き添い混乱を防ぐ。目印となるものを説明したりしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地は広く、環境が良い。屋外での活動が楽しめるように工夫していきたい。	○	坂道があり危険性もあるので、十分に気をつける必要あり。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々の花植えを行い、利用者様、来客者が見て楽しみ、心が和む雰囲気作りに努めています。
 んびりと楽しんで頂けるように取り組んでいきたい。

環境に恵まれた施設での生活をの